

第貳卷  
酉號

明治三十四年

辛丑日記



早稲田大学図書館  
文書27  
A104  
2



明治廿四年 辛丑日記

第二號



明治三十四年 辛丑 日誌

四月廿四日 晴

上杉三位公議會相満后日米沢に由野縣此  
星加風郵火に上杉公由道あり此新し長政上野と  
見送被身横田條に七路に石能誤

今村風行、到法、而功不在あり支配人福原元  
三層層談話曰、銀行創立以來、今年、如き心

策、日本中、流、い、多、大坂銀行破綻、其、書、  
東京支店、郷、有、来、中央、厚、銀行、唯、政府、の  
法、其、不、為、力、も、民間、融通、を、不、為、實、銀行、免  
險、之、勢、の、銀行、に、不、限、か、り、は、上、多、許、七、番、並、

明治三十四年 辛丑 日誌



經歲之耐忍 復想茲事之世之 敢取之方針  
可云々

此之勢力多上市之 易出氣之知也 中地所  
賣却所之河内之 於三着銀行也  
欲見而止之 勸業銀行也 亦以此  
亦據此而能之 亦以此 亦以此  
亦以此 亦以此 亦以此 亦以此  
說得之此 一年八朱之 一取之 家計之整理也  
身之通之 而改新備之 亦以此 亦以此  
改之 亦以此 亦以此 亦以此  
亦以此 亦以此 亦以此 亦以此  
亦以此 亦以此 亦以此 亦以此

德川代  
有德院吉宗

小金井櫻樹碑文

武州多摩郡上水小金井橋上下兩岸櫻樹 有廟  
時川崎平左門定勢之所種大凡古者十里餘今二里  
間千株餘云初定勢及武野銀之關役興而有功遂  
解褐司郡於是乎請而承 朝命採芳野及諸邦  
各種雜種之郡民子來封殖至寶元文二年丁巳  
歲也其舉慮衆根深八堤中而長無壞爛之患則  
兩岸樹數均而南岸葉茂北岸花盛者山豈徒哉  
相其陰陽度其便宜春隨艷陽悅往來目夏障  
炎先使行旅憩且開花鮮美映加清潔上落英繽紛  
浮不汚穢又且吾東方醫家一二方函及花總用解



我祖父言教  
人沒世之年  
我父吉和大人  
四藏ノ詩

毒劑則水毒亦可解况兩岸千樹相蔭映直流徑  
入東都何毒之有宜億兆饗炊之用煎茶第一  
之水所薦於鬼神羞於公侯誠忠用心庶乎仁政一  
助哉以下略之  
物之隱顯遲速有時千株之櫻十里水涯兩岸相  
均初種者誰司郡定考從何致之芳野他山遠採  
爰移多種天爭美花期瞻望悠遠若雲離披  
土人慣目猶未甚奇况都人士豈曾聞知俄然一頭  
游客近隨往還如織先後連騎時哉今顯盛  
花直呼稱種者功亦盛馳

文化七庚午 藤 忠明美識

七父方數年  
九十歲  
及化原年以石  
年辛丑九月  
碑建距石九  
年

右碑文の辛丑四月二十百境賦茶店倉木屋に於て  
抄録中石の序字之を記す  
芳野山之櫻橋を移殖す元文二年丁巳年卯月  
辛丑を距實、百二十九年、元文二年、徳川代  
將軍有徳院吉宗公之時あり有廟と吉宗を稱す  
世傳ふ小金井の櫻苑三代將軍家光所栽也  
下安人此智ん八代有徳院の時ありん今日本金  
井の好學問益を得る辭女ありハサテ小金井櫻  
十丁計り年割南岸、非常ニ大木一株清流此櫻  
の三百年の経歴を古樹と認視せらるハは碑文  
を以推定す凡の百二十年以來之如歟ありしこと



代々新四巻  
櫻井の古本  
少く政宣  
可種又收  
代り

古敏賜の文

了揚、玉川、水流、鑿、時載、  
櫻井の分、長短、以、理、と、推、  
證、授、あ、る、を、難、為、言、也

此四月二十一日記事

二十一日晴

拜天神像、世に経路、  
急、以、之、點、禱、す

晚方書所、  
二十一日、  
昨夜未雨

昨夜思案、  
二十七日、  
櫻井、  
庶務、  
了

利孝、  
延朋、  
二十七日、  
分割地、  
園幸、  
之、  
長政、  
年、  
二十七日、

利孝、年、冬、割、  
延朋、  
二十七日、  
分割地、  
園幸、  
之、  
長政、  
年、  
二十七日、

延朋、  
二十七日、  
分割地、  
園幸、  
之、  
長政、  
年、  
二十七日、

二十七日、  
分割地、  
園幸、  
之、  
長政、  
年、  
二十七日、

分割地、  
園幸、  
之、  
長政、  
年、  
二十七日、

園幸、  
之、  
長政、  
年、  
二十七日、

之、  
長政、  
年、  
二十七日、

長政、  
年、  
二十七日、

年、  
二十七日、

二十七日、

二十七日、



後、雨降、晴氣分悪日并揚、鶴二時、晴、揚、洋館、樹切、天風、浩、大八、帖、類、大禮服、書、類、一、見

二十八日晴

片、野、快、所、四、鄰、皆、新、係、於、庭、中、三、重、梅、鉢、花、美、倉、揚、之、梅、田、花、之、初、之、初、身、母、子、皆、不在、仍、為、揚、亮、所、未、有、古、初、之、訪、い、景、況、之、深、一、於、此、上、自、ら、身、合、以、儘、一、期、之、延、續、改、善、状、誤、之、方、之、也、均、宅、滋、水、之、也、目、録、之、教、歩、改、善、少、心、者、也

通、直、不、割、千、三、百、十、一、極、之、買、也

滋、水、傳、東、揚、高、氣、身、更、更、以、為、回、陰、の、金、上、一、才、大、道、未、有、滋、水、係、所、係、之、路、之、行、歩、一、目、思、也、運、寄、初、惠、地、信、ご、ん、前、之、係、所、之、難、之、目、思、内、田、庄、之、新、村、舟、園、の、凡、々、味、片、種、種、中、之、有、新、開、之、川、之、舟、小、船、控、入、り、海、軍、新、揚、之、均、宅、之、節、新、省、出、り

二十九日

午、前、少、時、午、分、目、免、少、伊、為、之、現、初、之、也、伊、為、三、十、年、六、月、之、辭、職、之、實、議、層、之、教、与、揚、税、之、不、成、立、之、ヤ、ラ、之、越、一、而、前、會、議、之、於、大、隈



板垣内閣の論議一ツレテ人論言如汗を疑固せりと事  
あり而シテ俄チ支那朝鮮漫遊を企テ飛半一死に法  
國康有為の變に遭遇シテ水師海軍の面會も思  
皇帝拜謁の敵目見恩張之詞面會も思テ而シテ歸國  
大坂演習中ニテヨリ一海國トト山縣面會以時桂陸  
相片岡星亨ニ自由黨憲法以府提督力セ約ルル  
其間伊藤知事知内之彷彿ハ我共ニ程ハハ内  
閣ニ板垣渡一ハ約月方ラズ一ハ内閣破壊一ハ月  
分ハ海外ニ遊道也世を傍觀スル不忠ニヤ當時  
勝伯ニ面シ軍田引リ伊藤内閣不成立ハ板垣ニ返一  
民黨政事ニ成時一内閣謹慎致スル為然ナリ

と各々其ノ其時黒田の唯點程トハ内閣の君之伊香保  
土産を坊ノのハ古月西為ニヤ其世ハ何成行ハ之  
節板垣ハ何為時予伊香保存ニ隈板内閣ノ最  
況も見テ先ハ官集ニ集テ自由政進ニ與俱本部  
為議定一ハ其尾崎外都大臣ニ演説共共和体  
ハ之を及議スルハ世議者ハ喧散又相辭表儀ハ  
板垣内相辭表儀遂ニ此内閣ハ瓦解スル山縣内閣出  
現スル十ノハ議會面及ニ其事ニ通過一悪税ニ  
評議ありハ増税ニ通過一ハ内閣議會ハ其時  
於論ハ昨年の義和團ニ其時平件ニ起ルハ山縣内閣  
更極一ハ翻爲手ニ力ニテハ山縣内閣ニ伊藤



出づる世に倦をりしを不拘政友會と組織政  
内閣之知を嫌忌し之政友と名稱せし一刺之入憲  
法創立以來内閣之方針是れ君主主義也  
取らるしに之を民多義と實況とあり之政友會  
組織之宣言ありし不系且一月十日議院會議決  
後會外之打破し之官業ありて議院と為一豫算  
とを視し之結府議院とを視し憲法とを視す  
此等之伊後日之御辭是作之然しし之あり  
渡り國政之狂瀆ありて

長治と百と心皆極田之古級と一ノ期は候馬

据て是より快極田に依りて之方有然と云ふんが、

三十日晴  
孝一揚揚地方より均花と穂河内迄致し城大  
石良雄地宛とて活なり

其利温三十七日下分何やらインガハ流り之嫌あり  
之注意あり林流り水係とて林業新三々三々

昨日九日午後十時  
皇孫出陣遊

五月一日  
林とて林庭前臨花也  
片日誠々稀々田庭庭事目出度恐候  
午前皇城禮服着用とあり山



皇太子殿下し多分川前旭旗七建ツ

二日

豊子考也

予前勸業銀行、高橋新吉を初不左

本後町三浦と初白話、防虎町地所一名を甲端後

午發長と記考、大佐名崔久野、インプレ、

築地、如く三浦、

岩川、岡坂町、初め、大佐を初新築以来、

初問、如く去月十日、米、インプレ、

倉如く、自分七と氣、初、

聊博、三十七百考、十分、

果、三十七百考、十分、

宅来、上、初、

伊藤、高、

内、

片、

三、

三日

白在編名盛田

今日、

行、

昨、

予、

此、

伊藤内閣  
辭表  
酒蔵相  
獨蘇表不為



渡邊経表  
強刺執灯

車祝之者甚多 日在物河岸より瀬七尾と云ハ正  
山下深谷 栢河原より車 餘程より流ききく 出立初  
廟より其日方東系を知て 成りしりり 尊上と云  
と見し形きけり 食膳を誼と申し 祝  
大給書簡と唱 病と高の才り。夜栢籠来疾  
申  
山中柴吉尼舞来 針藤 笑一し一國為 誕生也 終在藤  
申 日曜 栢村系改  
渡邊大藏大臣と云 西國を 謝旨を奉し 白毛 隈 辭  
表と佳選也 終在藤  
と云 雨大給と後書 似在藤

皇孫在命名より午前栢皇城及品川渡軍艦  
より百疊より祝祀酒樽在藤 其如 天地と節  
六日曇  
林来疾 半在藤 女子吐乳と女子為熱  
貞亮又及熱  
七日雨 火曜  
在藤 夜来疾  
片日 伊勢岩よりか 一羽と買ひ 自ら 肉汁  
と吸ふ 栢骨を 湯と申し 大給より 清来  
八日 波所  
今日 初日 栢尊 女子不佳 阿部 終在藤  
コノ魚一尾 莊坊系



前田八月廿五日、前田親來秀子、  
湯、山志世來不遇

九日 晚方雨

川村正治來、女子之儀、

可希 隔虎可地、上權、二通、語、必、身、區、裁、判、所、  
却、件、御、使、之、旨、而、之、保、區、裁、判、所、也、

山下梅子、豐子、之、儀、常、淺、穿、行、一、泊、借、屋、社、儀、

十日雨

山下、東京、諸、侯、大、給、之、旨、及、畫、郵、來、

午後二時、德、事、由、折、決、賀、之、儀、。林、素、新、

上、折、江、法、層、名、集、大、八、西、德、公、使、之、旨、之、旨、事、

伊藤總理大臣、依、歟、免、友、賜、前、官、元、勲、優、遇、

伊藤事件

今夜、上、伊、藤、山、岡、初、夜、之、終、末、之、言、外、事、也、

五月、伊、藤、辭、表、之、儀、一、年、前、之、旨、上、乘、來、

内、内、閣、不、統、一、之、儀、之、他、閣、臣、辭、職、

山、縣、西、郷、村、方、井、上、四、老、周、旋、侍、從、幹、事、岩、倉、是、定、

周旋奔走

岩倉内者、奉、之、伊、藤、大、磯、之、到、對、話、

八日、三、斗、所、西、郷、村、伊、藤、後、任、者、相、談、會、之、松、方、錄、

倉、歸、京、八、時、五、分、第、一、到、着、山、縣、九、時、廿、分、井、上、

繼、到、西、園、寺、又、到、午後、一、時、西、園、寺、井、上、去、山、縣、松、方、



ハ吾殘四時前後録也

西園寺、其奏内ニ山縣、意郎向、奏上ニ山石倉、午後時  
大磯、向、出度、若倉、伊藤急病見舞、為、西  
御印會議、結果、齋、往、

以上二十日伊藤退職、形況

山下源次郎雨中換浪、仰、 林未察

十一日雨

前田、為、贈、手、家、新、十、為、

十、為、

竹子、前田、行、金、百、見、舞、贈、手、内、代

前田、既、方、為、石、十、所、仰、為、手、車、明、於、摺、村、

行き入院、可、為、北、決、定

十三日晴

胡可、忘、摺、村、病、院、往、安、明、き、至

あり、行、違、前、田、為、摺、村、入、院、を、托、手、

大、給、為、物、渡、舟、を、卸、送、了

取、敷、手、入、浴、坊、二、日、斗、剥、脱

十四日雨

午、坂、青山、大、久、保、侯、幕、幕、門、已、領、之、壇

上、石、所、終、以、外、為、拜、一、口、位、為、人、を、置

き、和、名、を、撰、一、の、然、り、大、概、功、臣、幕、幕、以

あり、伊、地、知、伯、耆、并、伯、雲、田、伯、大、木、伯、後、藤、伯、元、







十七日晴

木梨男言ふ来日香山縣に泊りて又病友を以て十  
三年已心の營心なる春中贈る七律詩と  
二葉揮毫を乞ふ一の舊宅書るの抄を  
一の牌を乞ふ寶龜殿に十九と認る梅林の  
家来と云ふに世に与る約事一の辭書  
木梨氏存之役と海送る西郷と日友秀謀  
の抄一に以て来り又十年鹿兒島に假津羅  
野知但中鹿兒島に多男と謀殺を以て  
初者と陸河心可西郷國書誅詔書跡  
を機と多一追逃に抄と西京と来り謀殺に

澄澄人々多きと行りて西郷決断長出りて

午後新究多揮毫大給と贈詩和韻二首

今日舊曆三月二十日春書盡日は

櫻花七飛花見流書此日刻春無限情

昨夜一聲身用抄字而中新抄暗山城

抄大紙と詩と云ふと書る之と手書一の巻

十八日雨少風土曜

とて舊曆四月朔日初夜に

晩方より富吉ん妍と云ふ五十字尾尾助友子居

幹子と云ふ

十九日曜



朝起精神を揮し揮毫磨墨を不怠に  
需に徳を年收と二箇ありき

洋館前掃除

二十日晴如風

園庭掃除掃草新中、昨大蔵より山野何處榎の  
葉西國より今、河原松乃、謙倉、昨、大蔵

井上、中、録、導、と、決、定、し、評

午、後、一、井、上、金、黄、痛、次

榎村初院、多、お、多、を、見、釋、去、り、吉、野、に、登

到、り、見、舞、春、男、大、丸、寺、に、大、切、腹、世、に、行

淺、草、に、多、く、食、器、電、夜、九、時、頃、宅、内、清、く、新、搦

上野馬車之用

二十

榎田、二十、六、右、田、之、借、用、中、止、む、松、村、先、方、お、決、ま、り、面

中、一、頂、屋、差、萬、四、千、圓、利、七、年、一、割、月、一、圓、に、引、上

り、七、割、と、以、り、中、止、す、一、法、名、佛、書、を、死、去、り、之、に、以、り、乃

と、七、割、と、以、り、

井上、修、十、二、内、閣、總、裁、に、出、内、官、下、

十、八、山、縣、大、蔵、に、多、く、伊、豆、採、採、話、西、國、より、多、く

十、九、山、縣、伊、豆、採、採、話、井、上、に、引、上

二十、西、國、より、自、大、蔵、切、り、

井、上、く、有、底、温、湯、水、と、出、白、大、蔵、に、多、く、採、採、話、



二十日晴

午後飯所へ参り、差配所より初に持田  
利金月割方お談しの書面を呈し

由途田月堂と菓子を買仰

前田参り、持田初洗とあり、前長林参り

お参り、初洗山法を、持田治意方を

二十三日雨

朝本程参り、由途お参り、持田治意方を

お参り、由途お参り、持田治意方を

晩方雨、由途お参り、持田治意方を

持田初洗参り、由途お参り、持田治意方を

田舎参り、由途お参り、持田治意方を

町井山縣印會議、末伊藤、例に回避為

お参り、金澤参り、出掛、井上を席上

田舎参り、由途お参り、持田治意方を

町井山縣参り、由途お参り、持田治意方を

濃濃参り、由途お参り、持田治意方を

由途お参り、由途お参り、持田治意方を

廿四日晴

午前十一時一身に齒治療

持田病院へ参り、阿房参り、由途お参り、持田治意方を











前日奉る初院  
より拜おす  
無事

山の上二箇所、新修在申、清潔間敷、より  
乃、道安寺、龍王、二所、南阿彌、  
木あり、夏時、  
北岸、  
二十七日、

抄本、  
天久保侯、  
墓所、  
杉方、  
前日、

正金井之若

渡邊、  
葬、  
少、  
抄、

二十一日晴有風

裕仁親王、  
道、  
新、  
誠、  
抄、



と探り探り世々人未芝山之草を採りアスル木と東境  
移り 晩春好新道新歩 我境より三宅坂下  
海路を九石歩り 月夜好甲月十日  
平九日晴

平前極東城山人未芝川

と新古の一弁と多し善療治善銀のセニシと決り

正午二時鯉魚の多し鯉魚と定む血皮胃腸善

半と初院と贈り抄書あり

全中皮盤支那製と記す

大八登記公記と名の学校と休み小野市信及

功と新借金と登記舊債延期と改換

日所招子之時江物宅  
廿日晴

廿日晴

植木屋の末新宅と長屋と境と二重敷の垣を築

於大八作在車と増し登記改換

多島所借果園と坪の緩裡改

は。二作の九記載

大八古協論と皮盤と錠と外と兵と氣分

車と羅河と三徳皮盤と腕と下と大光

子と官印他五子海内と居子と居子と居子

日在揚物所と官印紛失と居子

九日晴















七日

天宮寺に参りて不來。お如く控村初院におもむき舞  
晚方雷雨吐天海。夏雲相若坊に

一日王耀

可平天宮寺に到り初院（此所）に到り。控村の天宮寺に  
控あり。千坂に表れ也。

お如く控院に控あり。初院に控あり。控あり。控あり。  
控あり。控あり。控あり。控あり。控あり。控あり。控あり。控あり。

九日曇。大雨。午前七時あり。下止り。

天宮寺に参りて不來。お如く控村初院におもむき舞  
晚方雷雨吐天海。夏雲相若坊に

有出許と詳食。吉敷殿と抽爨甲と當りし。

平田歡流會者起人より十名。帝國堂に於

て。其者起人。厨室。順所。不淨。因。法。局。

千坂。山。師。根。生。多。平。田。之。統。家。之。利。用。之。自。家。

商。買。之。利。益。を。謀。り。而。日。銀。り。り。多。金。を。得。り。て。花。札。

を。取。り。て。此。の。一。を。授。け。て。病。癒。を。せ。し。撫。を。行。り。し。

一。見。坐。り。し。且。此。の。出。身。の。外。保。善。書。數。と。

此。記。帳。を。取。出。し。勿。論。成。成。に。有。徳。一。件。と。

已。上。大。意。を。申。す。又。米。俵。を。取。り。て。徳。家。に。師。恩。

を。報。じ。し。此。の。生。活。費。一。下。の。銭。出。し。を。分。

視。白。粉。前。叙。列。之。錯。丸。之。控。舞。を。物。也。



書不細玉梅之奴あり如月

十日

野島所々自書と云々一十増々返詳来

午前全書書了り十以上象牙加持あり御とあり

后々手稿種記多品用勅意高潔と取除け

乃湯

今より書齋とあり是の家以肝要と書類取調へ

卯地果と記録吟味あり他方討道教あり書類と

土の町 大曜四月廿日

前書宅

午前例業調査の如し一奉

午後一三井と清女梅子と梅へ掛村初院に

お秀見舞

予の臨河と云西園と云に梅上保話の大成あり

伊初も書あり一後進より妙あり事とあり

娘の梅と云のさ方一既為り梅あり

三梅梅と云の法女梅子とあり梅と梅飯とあり

と云の梅とあり法とありとあり梅の口行置如とあり

半出梅本のあり梅の梅大書梅とあり梅あり

のあり梅とありあり舟廻りあり大書とあり

十日

於梅齋計法例業例調査

初乙元神全法あり梅あり梅あり



皇宮拜謁<sup>平</sup>酒饌<sup>之</sup> 又永田所<sup>公</sup>復

館<sup>多</sup>酒饌<sup>之</sup> 可市<sup>新</sup>定<sup>抄</sup>打<sup>新</sup> 秀子<sup>之</sup> 出<sup>院</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下

十<sup>三</sup> 日

午<sup>前</sup> 阿<sup>多</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

秀<sup>子</sup> 新<sup>宅</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

牛<sup>前</sup> 田<sup>大</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

牛<sup>前</sup> 田<sup>大</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

十<sup>三</sup> 日

十<sup>三</sup> 日

秀<sup>子</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

后<sup>夕</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

后<sup>夕</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

后<sup>夕</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

后<sup>夕</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

蘇

秀<sup>子</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

秀<sup>子</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

秀<sup>子</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

秀<sup>子</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>

秀<sup>子</sup> 未<sup>坊</sup> 之<sup>地</sup> 也<sup>也</sup> 牛<sup>止</sup> 下<sup>也</sup> 未<sup>宅</sup> 后<sup>夕</sup>











若族既没後招諸弟一人年桂仔理陰外多勞  
山縣侯者何可時子新部之孫山縣南刀四寸桂あり  
批之月々上々致之方々燭之於畫あり其向伊藤  
く子類多橋之面也星一人眼之向也解之勝書あり  
即其山縣は若族既没後招之為其族也其子清  
泡文あり

二十日

け間中其若族の家計等其若族書あり

西暦三年  
正月三日  
日記

二十一日 曇り

午後山下と訪天津領事鄭永昌之書来り昨午天  
津攻撃中其苦境を談話し婦人中締むるノナラン容貌

星亨不聽  
議事堂  
殺害せらる

辨在トモ常人の如く可

此時号外を賣り来り何れ元漢ハ祖撃シテ桂有相ヲ

祖ツタカ早ク号外上之ヲ購買シテ市兵事會議中若事属  
貞星亨不聽議事堂於テ殺害セラ元漢ハ撃テ劍家ノ

人庭某ナリ

帰宅然レ馬車より星の屍體致仰傍々通行ナリト青山新

坂所レ仰レ仰レテ近也ハハハ高レ 宿新白七

二十日雨降

大正不乘

宿新白七

休テ

大給と各々鎌倉り書状来り○星亨と有る



竹女山中の年、山中高坂より昨日築地海軍省植  
内、官舎修築す

廿四日

午前、前橋草如陶淵明、五柳あり、吾も五株  
あり、徑師在七友筆蹟、半切敷枚、表打抄、古来  
衆議院議員、星亨より、不筆、その方あり、何と年、  
赤坂新坂町宅にあり、名刺多、井口、吊間  
吉山、大山宛、郵、受、密、来、あり、と、稱、し、曰、類、也、也、  
は、帝、心、平、不、快、から、ん、り、伊、知、明、也、渡、邊、國、傾、き、大、山、  
娘、之、國、就、兄、子、秋、く、子、の、婿、也、也、國、就、く、吳、方、初、大、山、の、  
分、頭、仰、着、あり、べ、し、大、山、一、月、の、伊、知、推、選、あり、大、山、の、初、め

兼婚あり、吉井伊藤より、月、大、山、出、身、あり、何と、大、山、の、伊、知、  
之、學、信、あり、一、粒、玉、あり、何と、伊、知、の、目、下、伊、知、の、織、之、政、友、  
之、指、物、是、也、光、變、也、初、伊、知、の、也、

山縣、櫻、成、人、大、山、の、中、あり、

其、公園、初、倉、温、泉、の、法、政、一、管、者、下、段、尾、  
晚、食、良

廿五日

午前、大、山、本、邦、の、洋、館、多、許、あり、何と、  
之、洋、館、接、接、あり、何と、三、日、の、日、星、の、海、り、  
思、ひ、大、山、の、海、の、海、の、海、の、海、の、  
天神、傳、り、常、盤、揚、り、理、友、草、子、



ハミツトモ雲の夏恨子ハミツ初云の雲の物

方子素

二十ノ

高輪塚敷孝日生亨葬式之可之印共代為

ニ出テ

午後三時幸似本部無雨房但集會了

廿一火曜 評議及居 廿三月曜 之雨宿

二十七 於降雨

大結急崖降及物地ハミツ多ク陳先温泉

入流ヲ觀テ。該急崖式設河行ハミツ

投テ 著信ハ用テ

渡邊園式  
歐洲行

降雨之為陳先行延引

大ニ素新築中ニ暮ル北窓出腰ニ立テ

二十八日晴且雨

於子降雨仍水ノ線海軍延引段上野九時

陳車ヲ及テ白河迄テ非常ニ強雨ハハテ初為

子初雨ヲ藤金支店前テ終夜雨矣且夜中

覺テ氣蚊悵處ニ蚊陣ニ侵ル

二十九日雨 曉東天雲出山ニ夕陽映帶也

六時發車中時自着看ハ人多ク車ニ催シテ人

引ル山中ニ入道勢濤惡雨天續キ名陳艱テ可也

廿時頃陳先一僑一平完ニ引看ニ層橋之上席

赴鎌先  
留部ヲ亦  
名物ナリ



歸坐其二十六年而涉時思年之度指已九年  
成口家由老人之望相叙一平代叙之方之境  
若輩事可四回涉十二時能夜正午一涉午故之涉  
廿日定一 昨在夜感 日曜 曇天 晴雨  
午前四時半一涉六時發餐八時一涉十時涉及時睡  
十二時午餐一時早分涉四時晚餐及一涉涉

七月一日 月曜 辰 五月十三日 六回涉

午前四時涉雨中山響高々大杜鵑啼山巾  
綠柳白如雪之花花名何名之不知之涉  
餐一時分涉十時按摩十時半分涉十二時餐  
午後三時半涉六時涉八時涉夜書月見月

三度播昨於雨聲不絶后野溪流聲  
雲人身入梅雨不絶脚昨山色冥濛近  
午雨所山色七出之竹鳥雀七初鳴之聲  
明月前山影之影五月十三日既望前  
昨日晴天外一他七按按摩十時半就寢  
今日七時發餐十二時半退臥中心者似哇  
勞働行き誰と香火と供生ある人相り  
海と蒼鳥と鳥神と祈り

二日 晴 六 六回涉

午前七時半分涉十時半涉 二時半涉 午後四時半 九時涉  
山響 野鳥 山間 響 人 皆 似 吟 暮 夕



魚食及山園種畑望海ノ新号ニ渡  
過國武自ら日本ニ地ヲ放逐セリ  
歐州出航也

山縣黨ト伊前黨ト格抗ニ形モ  
關東信州部ニ及進者都築  
勢あり又尾崎行雄ニ功  
跡儘並換人目出有年也

三日為所

夜大雨

長政有言竹子ノ節ヲ造リ  
其心柔柔多雨西國中國  
言不違ト東北ニ来バ

は松外孫菊  
弟子紀

今日湯と易く行書初四法就寝  
夜半より雷雨出有  
川ノ出水と憂ふ

四ノ雨

午の雨乃涉九時  
聖教節と前自半葉黃山水ニ  
午後小島好問易活東京牛  
可陸軍中佐向後馬腰骨  
隣室の久保井、杉本野白家  
むろし窪田江智川より舟より上陸



陸り境迄若く運送之れ先年運河之橋  
行通之始めたり、忽ち鉄道之なる運送之利と失  
ふは、鐵道布設無き、則ち運送不可是也  
今之、多あり、亦道多あり

前年十一年、果ては、其の古井、其の郡、其の  
稲田、銀山、其の粟、其の吉井、出張、奥羽、同行、其  
氏家、其の屋、其の休、其の石、其の老、其の都、其の他、其の疎、其の道、其の建、其の設、其  
其の境、其の廻、其の宿、其の河、其の舟、其の物、其の一、其の年、其の何、其の能、其のあ、其のり、其のし、其の務、其の同  
其のし、其の年、其の紙、其の記、其の載、其のせ、其のり、其の事、其のあ、其のり、其の今、其の也、其の古、其の井、其の鉄、其の道、其  
其の古、其の年、其の而、其の言、其の死、其のり、其の而、其の言、其の已、其の十、其の年、其の全、其の生、其の何、其のん、其の  
如、其の此、其のし、其の也

津浦一野水也、仙臺、欲、海、波、之、北、海、岸、二、十、重、先、  
本、吉、シ、ツ、川、西、條、園、吉、早、五、元、歲、あり、何、初、氣、氣、あり、し、  
と、身、収、し、明、治、廿、九、年、五、月、廿、日、午、辰、七、時、三、海、濱、  
海岸、二、丁、斗、鐘、其、時、家、屋、之、俄、然、と、海、水、乃、屋、を、  
假、寓、と、交、ひ、余、由、水、を、看、み、片、時、時、都、石、好、美、  
火、乃、湯、を、あ、り、け、り、海、濱、と、根、據、地、を、空、名、之、海、岸、  
之、小、島、破、裂、し、之、島、の、片、の、河、口、掃、り、あり、  
其、島、海、中、に、島、の、破、裂、部、の、海、濱、を、あ、り、て、激、潮、の、  
空、名、之、山、の、五、丈、斗、り、衝、き、上、り、而、引、き、あ、り、山、下、  
平地、と、人、家、の、一、帯、海、濱、を、湯、流、せ、り、て、一、面、の、河、  
地、を、あ、り、家、屋、七、人、七、地、を、掃、り、あ、り、き、け、り、死、人、



之教三第人の海<sup>岸</sup>に云々聞かす場所の舟一物  
を不遺に海に流す事あり其郷者漸く石を巻金華  
山と云ふ處を知りて流す不思議之事海上沖  
合ふ所の海に障りあり其地沖尻より出たり淡  
船の多し深獲あり平日より大抵相成りて獲相  
知りしものありしに其船の類は淡瀬あり石の磯に事  
を十数艘の淡瀬船揚を並べて段々海岸の岨にきり  
家屋の柱の向きを流し来りて其岨に家材  
が流す事あり蓋し死人陸續流し来りて何  
事ぞと次第に岸の岨を向ふと見えぬれ其數里に  
海岸に人家樹木あり可見しものあり何れ大變

と云ふ事ありて而して岸をたれし家屋ありしものあり蓋し何  
一村に之をたれし無し誰に流し誰に流しありし事あり  
沖をりゆりて其岨に片木未嘗して大變あり  
ありしものありし事あり

此の事ありて聞かす人お新町の希なりと聞かす  
ものありし事ありて其地をたれし人の事ありし事あり  
情に流すものありし事ありて其地をたれし事あり

其の雨  
鎌倉より大坂船屋泊り客をせりたり御座る雨天候  
其地和静なり  
家屋絶てあり毎に雨多し川に増水陸道はな



然念其地昔昔其地其在也抑詢其地也

六日雨

白石川大川場水少鐵道破壊漢車停止是  
と高心以物京見と

少島如岡のこころ相考とあり平島彼のそむ行と一

杯と飲む 夜初知望と高物と祝儀と也

七、雨 為時晴

市一候宅と辭し其時鏑先と考す 日初七時

白石川有る生候市と考す 近防者家と白石川生

候と考す也 〇此よりと満之り人の中事と考す

白石川漢車と考す 神島於辯高と考す 松川と京元と電

むし 大争力  
風ハ白風と云  
つ后ハ大地と  
白風ハ白と云  
ハ風ハ白と云  
ハ風ハ白と云

報と考す物宅と考す 白石川食字漢車と日先年漢車と考す

之時上野着誰と 笑不來平以天神 追て來れ

可印考敏白亮と 子節と行候と 彼西月

為 詢宅と考す也

前田と考す也 根不犯と考す也 早と考す也 古山

森成考 之量事と考す也

八日 漢車 月 五月廿二日 小暑 六月廿日

然也也 大森と詢宅と考す也 根不犯と考す也 根不犯と考す也

二浦安入来 島崖唱和と考す也

隙先と考す也 漢車と考す也 隙先と考す也 隙先と考す也

肥後と考す也 岩原と考す也 支那と考す也 支那と考す也



大八之社 陽之山 名新定

九日雨

祖公様芳院之正名あり

子供昔之湯之精と云ふ鶏汁、西洋料理

一皿を取って、晩餐に供す

徳女在り山上の津来、語及出さう九時以降

福之島年々及第せり、親を以て奉養す

けねの時、頃長時、微震あり、初時迄

十

晴るを以て、園為さう、揚陸せり、車中、雨、一夜ハ

竹帚不入、其の好まざり

晩方長政の和控持りて、晩食後、就寝後

お滋之身、お赤松、お白流、お洋菊、お三瓶

お赤松、お白流、お洋菊、お三瓶、お赤松

十日 曇 舊曆 五月廿六 夜雨

天氣の梅の如く、細雨来、后日、日者中、使

又、且入梅、今日限り

午後一睡、之時、大真留、訪前留、暮、お赤松

煙山、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松

お赤松、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松

お赤松、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松

お赤松、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松、お赤松



九時頃歸宅

十一

晚方長政榎於春對袖半旅院手車七夜後  
夢心之深及昔一

十二 晴

午後一時、三浦相与自宅、長國中山  
海兵、物者、多防備、少少、亞細亞協會、非  
二採用、ありし、在、東、尾、崎、  
本、山、金、井、以、添、成、激、大、城、有、書、画、揮、毫、法、境、  
坊、あり

田、途、海、軍、省、等、地、有、廣、山、中、七、訪、少、春、三、五

けり岩國、孫、兄、上、系、有、方、親、撰、料、と、海、

十四日雨終り

園庭掃除、藻、先、詢、末、及、我、老、賜、映、ま、り、の

一、甲、初、度、之、西、遊、一、山、浦、公、之、法、轉、り

一、浦、突、久、里、濱、亞、米、利、加、初、航、名、存、べ、り、建、碑、成

隆、幕、式、内、訓、員、一、統、之、臨、場

金子、怪、帯、堂、田、義、文、之、國、旗、我、軍、艦、三

艘、と、あり

一、金子、怪、帯、堂、星、君、之、跡、市、春、事、會、員、之、乾、任、事

一、園、外、供、物、部、日、都、集、聲、云、の、り、り

一、東北、會、擴、張、と、あり



一第少師國長山口壽臣の率る軍隊昨今協和  
十少次上原と多小老代と自北京駐屯の兵共  
一昨今出動中なり

一西軍の三擴張論場税問題新案出  
あり北軍の亂れんとす一法蘭西大子端郡王は  
自大軍の奮勇の甚目的山西省を村人聯居  
自官兵と協定府所守り得る法必軍隊の既反  
走と相傳へつたり

一昨日和議不成就の况候、晚食夜十の時就寝  
二時三十分地震自覚せし  
震後再就し復四十分再月免む枕上筆を

天下の我皇帝一人と天下と一と而す誰、我帝位  
を親よあありんや故に一と之の政事と是非得失一  
時と事と終國共一局に成敗と事と一般  
なり其伊藤今日自黨を離れ自大隈一  
人となりんとす時なり却る十少の身頃大隈  
と自黨を離れ時を回想すれば一日黒田、青井  
と兼りサテ今之の兄弟國境の所多し以て  
私事小故と論共大隈、高身開拓の政略を  
以て未不可忍に仇敵なり其情憤懣たる堪り  
略して居る隣國を大敵とす我を睨むに堪り  
二何處まで去るべし不可忍は、邦内區分



膏之味も大隈の今時差議之職を去るに  
新米在廷の事上は長者あり大久保去り木下去り  
閑坐の身は十七年本政府の省坐を以て  
衆人之尊敬を以て居り人可なり十四年  
免職以来伊藤の抵抗の如く切智を以て  
一種の政黨を組織し改進の各社を以  
て俄然と仇牙を以て試むに誠大隈の爲の惜  
み又國家の存を憂慮し以て今や東洋  
の大局を對し隣国の物事を察し一己の私  
憤を去り大隈の親睦を以て願ふ先  
也情あり余の深慮も大隈多優て大隈を以

私黨組織を廢棄せん事をも忠告ありん事をも  
望むと思ふ思切を吉井も伊藤も吉井  
直ちに我完を以て思ふ之哀愴も此より  
大隈の如く親睦一論を以て且副島は思  
田に誠意を以て思ふ大隈の親睦を以て私  
情も亦東洋の大局を以て起原も本を以て  
急を報道せん事も且思ふ副島との關係も又  
五年の事次第に轉事作ら脚眼の如く西情  
和解の場も到るに伊藤は友の伊藤歐洲の如く  
先づて内と外とを以て及ん事も足下余  
と副島との間に書力ありん事をも望む也



又足下、一々忠告す可事あり米澤藩を  
 足下盡力に成事佳境に到り畢竟免  
 山形赴任の事道途用件独産甚多  
 且之展一七益に留上出此時  
 且下之書多力兵多あり此  
 州之感情不佳動其長人米澤の指  
 彈は厚や足下之歩隊伊賀一人のみ  
 不逞山縣とあり米澤せん  
 あり

以上吉井右隈の記、漢語の同者別  
 記を有る別山形藩の別記を有る

右吉井黒田交遊より熟考すれり

黒田大隈を動慮せし一己私多し其物  
 大隈に政黨を組織する為の野心を  
 是吉井右隈の録に長言を及ぶ吉井  
 右隈の心算なり別山の紀略簡短に忠告  
 云々を記あり吉井右隈の  
 十六年八月伊賀藩を改題して自由改進  
 一黨を創設し憲法を創立し自由改進  
 黨を改題し民権黨と改題し君権黨  
 二黨を設けし其の年改題し先づ第一  
 十七年の七月七日に改題し其の



授け華族之列に民権主義の人心を區別し桓垣  
後藤大隈の華族の列せしむる可く徳小伊原  
官制の大政官を發行し大政官を廢す内閣  
を大政大臣を被る徳澤を為し自ら  
其職を言し徳澤を為し二十年五月友  
人として後藤桓垣大隈勝も島善伯首を授け  
伊原此より國會開設憲法政治の域に進む  
此時自由改進桓垣大隈の外は後藤大隈  
徳小伊原大隈も出現すは伊原官制  
を井之徳戸日、也互に徳小伊原を  
中心不平めり也一、大隈黨を起し

初

十八年改新改正せしむる時、以後は公選世相  
三條公生が、大隈大政大臣伊原、  
理大臣、井上外務大臣、一足飛、  
約改正を徳小伊原、婦人、  
手、此、一、大隈、  
裁判権より官農相の歐洲、  
て、改正中止、  
之、  
布、大隈、  
山、



國府山縣首相の子に開張せしむる松方更松  
首相より露皇儲大津子事件に事變を經り  
伊藤真任時代日英戦争となり戦後十年  
徑盡く増税問題より又松方首相に任ぜ  
金貨國貨より物價騰貴を待たず伊藤井上  
混成内閣より増税問題の解決大隈板垣  
私黨内閣より松方内閣より山縣松方  
貴族院改革あり又伊藤政友内閣  
となりて内閣不統一のあり是れ山  
縣の子分内閣となり而して各省皆自由  
改進の政黨となり是れ不振悲境に沈淪す

經濟驕沈金幣流通輸出輸入不平均國家  
困窮到は伊藤大隈の五分五分の中間に陥る

十月雨

國庭掃深竹葉巾を推乃（沈く）芝草を掃、  
夏雨潤土を滑り、故に靴履頭故に土を  
打つた如くお屏を以て徑之又前類の如く  
御着きあり、一帖頭部より、  
長知新、土月掃田邊物に二百圓を儲け、  
七月祀祖より初日渡す。竹廿山中に泊り、  
午後の所中保身部に出る、午前在居居比、



数也。好也。細業銀りの。多し。之。揚。面。會。  
賢。信。談。話。經。流。夏。之。先。の。穂。身。り。り。  
日。在。揚。西。川。り。り。之。七。之。悔。懐。と。重。ふ。

中華。高。り。り。之。思。い。后。夕。非。常。之。雨。り。  
お。や。と。山。下。と。あり。り。之。字。而。中。時。宅。

十六日。晴

大。八。之。儀。部。の。景。氣。之。多。海。標。常。り。り。之。身。  
當。の。海。柳。之。り。り。之。山。中。り。り。之。前。前。前。  
お。や。り。梅。子。と。り。り。之。置。物。出。り。

十七日。雨

り。り。雨。降。阿。新。竹。子。と。夫。母。り。り。の。お。お。り。り。

六月。廿。七。日。老。子。之。袍。と。夫。母。之。信。信。之。來。米。少。之。老。心。  
獨。身。之。幼。幼。之。神。之。可。急。者。也。り。り。之。后。夕。之。り。  
母。之。一。雨。之。夜。夜。り。り。之。身。之。計。之。也。計。之。也。計。之。也。

十八日。晴

陽。之。出。日。光。之。り。り。之。信。信。之。也。り。り。之。信。信。之。也。り。り。  
長。園。之。符。之。杖。之。也。法。國。之。杖。之。也。り。り。之。信。信。之。也。  
り。り。之。信。信。之。也。り。り。之。信。信。之。也。り。り。之。信。信。之。也。り。り。

仰。之。多。竹。添。先。之。柄。之。也。本。銀。行。之。也。り。り。之。信。信。之。也。  
他。之。也。り。り。之。酒。酌。之。也。り。り。之。信。信。之。也。り。り。之。信。信。之。也。

張。之。洞。王。之。者。袁。道。台。成。其。也。信。信。之。也。り。り。之。信。信。之。也。  
王。國。子。詢。之。り。り。之。信。信。之。也。り。り。之。信。信。之。也。り。り。之。信。信。之。也。

梅。子。の。信。信。之。也。



十九日

貴族院六國新より交渉員一人絶て出目内  
閣より七國議定書を提出東海論の  
相下りり出せり

行政刷新 財政整理の二問題

前内閣在野の導手不練とありは事業遅延  
問題の國に現例の意見と信問スベキ事

清議の要員とあり

柳宗智より黒田長政と山田廣行協政協定

金子登より岩根建策本羅倫より本田親雄

船橋より小澤武雄 若法倫より船橋信

折喜貞不日桂首相岩根蔵相と交渉あり  
年改の所故に大抵乙卯甲九の祭禮と日本協保会都  
報行の所より萬子の如く高橋種人の人物集集り  
大概如電の考釈より空也居りたりとあり  
之をかん

后北法事受才一切賞りる山口忠臣東御  
年八月御島安正紫衣命若若勲賞あり

二十日

井戸職在官来り小左敷中塗仕舞

その誕生日久小酌子供若大と世し

二十一日



於商情思者而多天氣初晴

日報社行年記

資本十億分日佛白露之組合其法心鐵道車  
業之起

北清貿易二十年間其割進步中法十三割南  
清之割

南法七千八百萬兩已之英之手中北法三千四百萬兩  
日本之之之

支那債金割増一未固之積成少之腰強一  
露國一割増一故降滿洲之特約抗議之海軍  
と見之別

事業中止の緣起は清國自ら其手癆我懐の之を理  
勿事とわら見禁へ之張り如浮誇の取新國の  
金商銀行資本五億二千萬圓其發達  
可知然對物信用昂り質屋の之間其初

其甚く極少

日清銀行設立を以て之會徒金の清幣利  
用の相互の利但確證爲當之人之之るが其小計

と候

晚方祝三及第之祝之勢未由及祝之之望は多り  
洋食多し長治短敷は能く考へ

二十名時

七年之五

其用之のり夫天氣少り  
吐之而澤は力り雷鳴は雨

其南之り  
吐之而澤



井戸在六人來り、水磨井、右井、側、左、塙  
 聲、二側、を、縮めて、二側、を、新側、一箇、を、井、邊  
 改、予、井、之、形、以、也



此、右、井、側、四、箇、有、り、其、上、水、磨、井、槽、木、多、二、箇、有、り  
 造、神、隱、之、一、新、製、一、側、多、し、舊、側、一、箇、二、箇  
 有、り、  
 磯、邊、林、蓋、造、り、如、此、來、り、昨、日、其、中、に、  
 大、八、宮、護、之、十、二、の、磯、邊、一、泊、十、七、の、西、中、深、宅、磯、邊

磨、裏、の、湯、流、し、場、所、を、以、て、携、り、て、此、磯、泉、  
 の、水、を、飲、む、べ、し、と、醫、定、り、  
 昨、昔、前、田、大、本、村、の、品、川、の、修、智、僧、屋、四、疊、下、り、  
 多、狭、き、お、お、り、身、水、の、物、竹、子、の、中、を、流、し、  
 前、田、へ、行、く、此、の、竹、子、の、前、法、威、が、有、り、竹、子、に、  
 可、お、り、四、箇、有、り、延、引、を、以、て、此、磯、泉、の、水、  
 と、相、合、す、大、本、村、の、湯、向、り、  
 新、宅、に、小、座、敷、中、坐、廿、日、の、湯、下、敷、以、て、往、師、屋、に、  
 呼、び、使、え、張、り、し、り、九、箇、中、新、湯、を、三、箇、  
 大、八、宮、護、之、の、湯、を、十、七、箇、中、湯、を、五、箇、の、湯、を、  
 返、り、し、り、  
 右、新、宅



二十日晴能晴所之及又雪止の科可多之天氣也  
 井戸屋敷の井戸落し  
 祝三時斗終失家内推敷毎在籠義  
 明、竹子梅子豊子清母之七種之天候迄杯屋  
 有造方、御治可多同行支度と多  
 本日午坂有雪俱赤部に評議會と并に在席  
 船廻り、桂首相と多、お流しに課也  
 一行政及財政程に調査之件  
 二地方政務之件  
 三二十四日午後豫知中事業豫延之件  
 四三十五年交豫算之件

五外交、條件 六教育行政之件

扱件と取替り、夕方院六名桂首相に面  
 利談判、一、物、別、確見定編之是、一  
 偶、外部論述新揚、其揚、馬車路、是、物、  
 策、金、於、海、水、昌、海、海、進、其、揚、力、米、軒、天、取、  
 洋食  
 井戸落の終了、梅屋、一側、埋り、在、取、り、泥  
 塗、壁、也、一側、側、也、一側、埋、り、可、段、先、一側  
 分、丈、と、沙、石、を、入、玉、沙、道、と、ス、カ、丁、の、一、側、也、(一、  
 泥、塗、り、柳、り、但、は、即、場、水、多、量、存、術、不、可、能  
 然、は、是、法、也、也、十、年、大、夫、可、用、也、



祝玉時針の米飯三升在<sup>ニ</sup>牙齦并<sup>ニ</sup>埋方<sup>ニ</sup>  
考<sup>ス</sup>之<sup>レ</sup>人<sup>ノ</sup>完<sup>ク</sup>事<sup>ハ</sup>六<sup>ノ</sup>廿<sup>ノ</sup>年<sup>ニ</sup>疑<sup>ハ</sup>ル<sup>ク</sup>

二十<sup>ノ</sup>四<sup>ノ</sup>

今日<sup>ノ</sup>穢<sup>ニ</sup>重<sup>ク</sup>リ<sup>テ</sup>受<sup>ケ</sup>テ<sup>ハ</sup>咽<sup>ノ</sup>喉<sup>ノ</sup>白<sup>ク</sup>濁<sup>リ</sup>滅<sup>ス</sup>ル<sup>ト</sup>也<sup>ト</sup>  
熱<sup>ク</sup>氣<sup>ハ</sup>多<sup>ク</sup>盛<sup>リ</sup>熱<sup>ク</sup>刺<sup>シ</sup>明<sup>ク</sup>延<sup>ス</sup>宇<sup>ノ</sup>

北<sup>ノ</sup>堂<sup>ノ</sup>掃<sup>キ</sup>下<sup>リ</sup>銀<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>針<sup>ノ</sup>出<sup>ル</sup>現<sup>ル</sup>白<sup>ク</sup>濁<sup>リ</sup>掃<sup>キ</sup>下<sup>リ</sup>  
と<sup>ス</sup>つ<sup>カ</sup>一<sup>ノ</sup>時<sup>ノ</sup>針<sup>ノ</sup>光<sup>ク</sup>見<sup>ル</sup>針<sup>ノ</sup>掃<sup>キ</sup>也<sup>ト</sup>

可<sup>ク</sup>テ<sup>ハ</sup>早<sup>ク</sup>過<sup>ス</sup>於<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>於<sup>テ</sup>時<sup>ノ</sup>針<sup>ノ</sup>持<sup>テ</sup>不<sup>ク</sup>履<sup>キ</sup>也<sup>ト</sup>有<sup>ル</sup>  
盤<sup>ノ</sup>井<sup>ノ</sup>上<sup>リ</sup>水<sup>ノ</sup>赤<sup>ク</sup>也<sup>ト</sup>二<sup>ノ</sup>坪<sup>ノ</sup>掃<sup>キ</sup>下<sup>リ</sup>履<sup>キ</sup>石<sup>ノ</sup>生<sup>ル</sup>  
也<sup>ト</sup>以<sup>テ</sup>埋<sup>キ</sup>設<sup>ス</sup>事<sup>ト</sup>

辛丑九月七日於伊名塚法<sup>ノ</sup>寺



